

## ふじのみや探検

## 第10-2号 馬車鉄道のひみつ



発行：富士宮市立中央図書館 〒418-0067 静岡県富士宮市宮町13-1 TEL:0544-26-5062 FAX:0544-26-1284

## ひみつ1 馬車鉄道ってなに？

明治時代の中頃から大正時代にかけて、富士宮に馬車鉄道（馬車軌道）が走っていました。富士馬車鉄道は明治23年（1890）に営業をはじめました。静岡県で初めて、日本全体でも6番目になります。

馬車鉄道と電車のちがいは何でしょうか？電気の力で走るのが電車、馬の力で走るのが馬車です。電車は、すごいスピードで、おおぜいの人を乗せて走れます。馬車鉄道は歩くぐらいのスピードで定員も12人です。同じなのはどちらも線路の上を走るということです。

御者は、黒いぼうしをかぶり、金ボタンのついた黒い洋服を着ていました。御者の吹くラッパの、トテトテという音があたりにひびきました。当時としては、とてもかっこよく、御者は、あこがれの職業でした。

明治38年（1905）になると富士馬車鉄道は、客車17両・貨車77両も持っていました。会社は黒字で、大はんじょうでした。馬車鉄道の停車場は、東小学校南のコンビニエンスストアのあたりにありました。そこには、車置き場・倉庫・馬小屋などがありました。たくさんの人や物が乗りおりするので旅館やお店もでき、にぎわっていました。近くに大きな池があり、夏になるとはすの花が、たくさんさいたそうです。停車場のあとに今は、「大宮町鉄道馬車会社発着所」と書かれた石碑（4p写真）がたっています。

こんな鉄道が、今もあったら楽しいですね。

## ◇ことばの説明

- 御者・・・馬車に乗り馬をあやつり、走らせる人 運転手さんです。
- 客車・・・お客さんを乗せて走る、鉄道の車両（くるま）
- 貨車・・・荷物を運ぶ鉄道の車両、屋根やまわりのかべなどはありません。
- 黒字・・・入ってくるお金が出て行くお金より多く、お金があまること
- 停車場・・・車が止まる場所、駅とおなじ



曲松（現在の北町）付近を走る富士軌道の馬車

（『写真集 懐かしの富士宮』より）

## ひみつ2

### なぜ富士馬車鉄道ができたの？

明治22年（1889）東京から静岡へと東海道線が開通しました。そのころは、蒸気機関車が走っていました。富士には、鈴川駅（吉原駅）ができました。すると、製紙工場が、入山瀬にたてられました。これが富士製紙です。なぜ富士製紙はここに工場をたてたのでしょうか？それは、私たちの富士地区が「水と森」の町だからです。製紙の原料のきれいな水と豊富な木材がかんたんに手に入れられるこの地に製紙工場ができるのは、あたりまえですね。

さて、入山瀬に工場をつくりましたが、機械や原料を運ぶ道がありません。そこで鈴川（吉原駅）から入山瀬まで新しい道を作りました。これが大宮新道です。

この道に馬車鉄道を走らせて、多くの荷物を運びました。しかし、貨車だけではもったいないので、客車も走らせ、富士登山のお客さんや、地元の人も乗せて走りました。

#### ◇ことばの説明

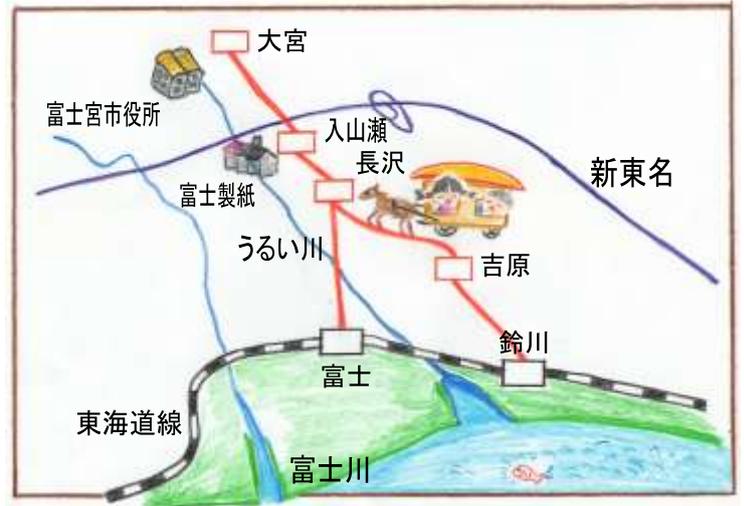
- 蒸気機関車・・・石炭をもやして湯をわかし、蒸気  
の力で動く汽車
- 製紙工場・・・紙をつくる工場
- 原料・・・物を作るもとになる材料 製紙の原料は  
木材と水

年	できごと
1889年(明治22)	東海道線が開通する。
1890年(明治23)	富士馬車鉄道が開通する。
1905年(明治38)	富士馬車鉄道、客車17両・貨車 77両を所有する。
1909年(明治42)	東海道線・富士駅が開かれる。
1909年(明治42)	富士から長沢まで、馬車鉄道が走 る。
1912年(大正元)	タクシーが大宮町を走る。
1913年(大正2)	身延線が開通する。 (大宮から富士まで)
1924年(大正13)	バスが大宮町を走る。
1925年(大正14)	富士馬車鉄道がはいしされる。

富士馬車鉄道年表

## ひみつ3

### 富士馬車鉄道はどこを走っていたの？



#### 馬車鉄道が走った

上の図のように大宮から、鈴川まで12.4kmを走りました。大宮（東小の南）・天間・入山瀬・伝法・新橋・鈴川（吉原駅）と6か所に駅を作りました。道路に60cmのはばで線路をしき、鉄道を通しました。乗車賃は、大宮から鈴川まで子ども5銭でした。お客さんが手を上げれば、どこでもおろしてくれました。とっても、便利ですね。

馬車鉄道は、単線ですれちがいは、駅でおこないました。たまに駅以外でぶつかると、お客さんに客車を持ち上げてもらい線路からはずし、相手をやりすごすと、また元にもどしました。

明治42年（1909）東海道線に新しく富士駅ができました。すると、富士馬車鉄道も富士から長沢まで3.2kmを開通させ、もとの線路とつなげたので、大宮から、富士に行くのが便利になりました。

#### ◇ことばの説明

- 5銭・・・銭は、お金の単位、今の500円ぐらい。
- 単線・・・1つの線路で運転すること。広く場所をとらなくてもよい。

#### ひみつ4

### なぜ富士馬車鉄道はなくなったの？

富士馬車鉄道を一番利用したのは富士製紙です。原料の木材や製品の紙を運ぶのに馬車鉄道は、大かつやくしました。でも、もっと早く、もっと大量に荷物を運べる交通機関ができました。それが、富士身延鉄道（身延線）です。

大正2年（1913）大宮—富士の間に身延線が開通しました。汽車は、安く・時間通りに荷物を運びました。富士製紙は、身延線を利用するようになり、富士馬車鉄道は、一番のお客さんを失ってしまいました。

富士登山をする人や富士宮の人も便利な身延線を利用するようになりました。また、石川自動車は、富士宮に路線バスを走らせました。早く、安く着くので、バスを利用するお客さんも増えました。

大正14年（1925）富士馬車鉄道は、最後まで残っていた入山瀬—鈴川駅（吉原駅）間の運転をやめました。こうして、富士馬車鉄道は、35年の歴史に幕をおろしました。富士馬車鉄道が、富士宮の交通にのこしたあしあとは、とても大きなものです。



富士身延鉄道の汽車（大正8年）

（『写真集 懐かしの富士宮』より）

#### まめ知識

### 富士宮に、2つ馬車鉄道があった？

ありました。もう一つの名前は、富士軌道といえます。富士馬車鉄道ができてから20年後、明治43年（1910）のことです。まず、富士軌道は、大宮から上井出まで開通しました。そのあと、さらに人穴まで延長しました。

なぜ富士軌道は、作られたのでしょうか？それは「ひみつ2」でもふれたように製紙原料の木材を手に入れるためです。富士軌道に富士山の木材を乗せ、富士製紙に運びました。そこで作られた紙は、富士馬車鉄道から東海道線により全国に運ばれました。

富士軌道は、大宮から上井出までは客車も走らせました。浅間大社のお祭りの時などは、12人の定員のところを40人も乗ることがあったそうです。ぎゅうぎゅうづめですね。早さは人が歩くくらいで、大宮から上井出までの上りに、2時間半ぐらいかかりました。

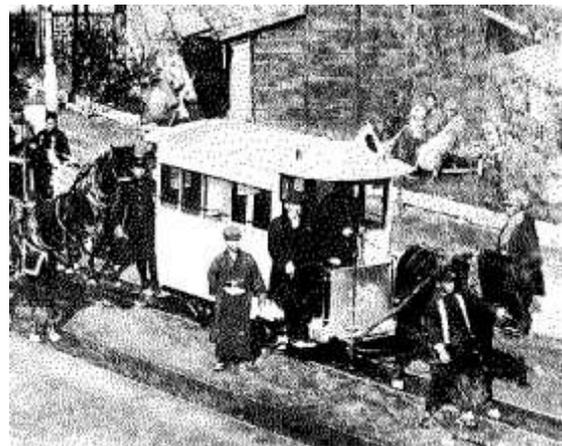
富士宮北部の交通に重要な役目をはたした、富士軌道は、トラックやバス路線が開通したことにより昭和13年（1938）に廃止されました。



富士軌道



馬車鉄道の碑



富士馬車鉄道（明治42年）  
（『目でみる富士市の歴史』より）

◇『第10号・馬車鉄道のひみつ』は、次の資料をもとに作りました。

- 1 『富士宮市史』 富士宮市史編纂委員会／図書印刷 1971
- 2 『鷹岡町史』 富士市史編纂委員会／図書印刷 1984
- 3 『吉原市史』 富士市史編纂委員会／図書印刷 1968
- 4 『目でみる富士市の歴史』 鈴木富男／緑星社 1995
- 5 『日の出二区誌』 日の出二区誌編集委員会／緑星社 1997
- 6 『写真集懐かしの富士宮』 遠藤秀男／羽衣出版 2009
- 7 『静岡県鉄道興亡史』 静岡新聞社／大日本印刷 1997
- 8 『今は昔しずおか懐かし鉄道』 静岡新聞社／図書印刷 2006
- 9 『一郷土の交通—富士軌道展』 富士宮市郷土資料館／富士宮市郷土資料館 1999
- 10 『新富士製紙百年史』 新富士製紙社史編纂委員会／凸版印刷 1990

